

# ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ 〔2022年6月7日放送分・北三番丁／細横丁〕

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

- 芭蕉の辻から奥州街道(現在の国分町通)を北上する旅の途中です。今月もまた西に寄り道し、スタート地点は晩翠通の北詰に近い青葉区木町通です。木町通小学校の南側に、北三番丁公園がある交差点です。後に「養賢堂」と呼ばれることになる仙台藩校の前身が、1736年～1760年まで、この交差点の南西角にありました。手狭になったのと、城下の中心から離れていたことから勾当台に移されたようです。
- 今回の辻標は、北三番丁公園の植え込みにあります。「北三番丁／細横丁」。このコーナー24本目の辻標です。北三番丁は、宮町から「へくり沢」までの東西の長い通りです。西の「へくり沢」は、現在の青葉区広瀬町周辺の深い谷をさします。城下の難所で、北三番丁も北四番丁も北五番丁も、「へくり沢」の谷にぶつかって終わりました。

- 「細横丁」は、幅3m弱という人がすれ違うのもやっとという文字どおりの細い道でした。戦後の復興で拡幅され、昭和57年から晩翠通と呼ばれるようになりました。晩翠通は北四番丁までで終わりですが、細横丁はさらに北にもう一丁、仙台二中の南側＝北五番丁まで続いていました。「トヨペット」と「斎苑」の間の小道は、当時のままの細さと思われます。この細い道に入ったら、ぜひ南の晩翠通を振り返ってみてください。真正面にイチョウ並木のグリーンベルトが見えます。かつての細横丁の幅がそのまま、晩翠通のグリーンベルトとして残っていることがお分かり頂けるはずです。この「ピッタリ感」は鳥肌ものですよ！



- 〈文・佐々木淳吾〉